

## 美浜原発新設方針の撤回を求める

関西電力は、参議院選挙直後の7月22日、福井県美浜町の美浜原発で、原発の新設に向け、地質調査を実施する方針を表明しました。私たちは関西電力の原発新設方針に対し強く抗議し、撤回を求めます。

事故を起こした原発では溶け落ちた燃料デブリの試験的取り出しが始まりましたが、依然として廃炉の見通しは立っていません。避難地域では、事故から14年が経過した今でも、住民が自由に出入りすることができない「帰還困難区域」が7つの市町村に広く残されています。避難指示が出された12市町村の発表によれば、5万4千人以上の住民が故郷に戻れず避難を続けています。故郷に戻った住民も、病院、買い物、仕事など毎日の生活において、さまざまな苦勞が続いています。農林水産業や観光業な

どの再建にむけても、懸命な努力がすすめられていますが、事故前の水準には戻っていません。

原発はいったん事故を起こせば、家族も、暮らしも、生業も、地域のコミュニティも、あらゆるものを破壊してしまい、長期にわたり、とりかえしのつかない被害をもたらしており、これが福島原発事故の実態です。この実態を無視して、原発の新設をすすめることは絶対に許されません。

## 生業原告団・美浜町と関電に抗議

生業訴訟原告団・弁護団は8月21日、美浜町と関電本社に要望書の提出し福島の声を届けました。

美浜町では町長には面会できませんでしたが、エネルギー課長補佐と総務課長補佐が対応されました。担当者は「福島については報道により順調に復興が進んでいるものと考えて

いた」と発言。これに対して原告団は「避難指示区域の小学校では事故前の11%にしか生徒が戻っていない、ロボットテストフィールドや「FREER」などの新規事業は注目されているが、地元雇用には殆ど貢献していない。回復不能な被害をもたらすのが原発事故であり、それを直視しないと政策判断を大きく誤る。受け入れを再考すべき」と申し入れました。

## 要望書を廊下で受け取る関電の姿勢

関電には、事前に訪問と要望書提出を連絡していたにも関わらず、廊下で広報担当の2人が受け取るという横柄な対応でした。弁護団の深谷弁護士は「原告の話は傾聴すべき重要な中身であるのに、このような対応は失礼の極みと言わざるを得ない。関電は重要なチャンスを失った。安全性への取り組みの真剣さも根本から疑わせる」と強い口調で抗議しました。

# 関西電力の原発新設NO！ エネルギーの主役は再エネ

関電本社前には、毎日放送、読売テレビのカメラが並び、新聞社も多数取材に並び、通行人が振り返るほど注目され、関電の新設方針への抗議は大きな波紋を広げました。  
(東北農民連 服部事務局長)



美浜町に要望書を手渡す原告団長の中島さんと服部さん

## 差し迫る気候危機に原発は役に立たない

原発を新設するには建設期間が20年程度の長期に及びます。日常生活を脅かす酷暑や異常気象を押しとどめるには、直ちに脱炭素の取り組みが必要であり、原発は何らの役に立ちません。安全対策の増加で建設コス

トは現在でも1基あたり1151.5兆円とも言われ、規制強化や物価高騰でさらなるコスト増加も予測されます。電力会社のみではこれほどの巨額な投資はできず、国の支援、最終的には利用者に負担を強いる「長期脱炭素オークション」による支援が見込まれます。

## エネルギーの主役は再エネへ

2024年、世界で新設された発電施設の内、再エネが92.5%を占め記録的な成長を遂げています。一部の国では原発新設がされているとしても、世界のエネルギーの主役は再エネです。電気自動車の普及拡大と同時に蓄電池の価格低下、性能向上により、さらなる再エネの普及が進んでいます。原発新設・再稼働、火力発電の延命は再エネの出力抑制を広げ、普及の足かせとなっています。2050年の再エネ90%以上は世界の常識となっており、日本も今すぐに第7

次エネルギー基本計画の方向修正をするべきです。

福島県二本松市内で農産物とエネルギー生産・ソーラーシェアリング事業を行う(株) sunshine (農民連会員)の取り組みが映画化『陽なたのファーマーズ』されました。原発事故を経て農作物とエネルギー生産に取り組む農家の希望にあふれた挑戦です。ぜひご覧ください。福島フォーラムで10月31日～11月6日まで上映されます。全国の上映は左記のQRコードを参照してください。



10月31日～11月6日  
福島フォーラム上映

全国の上映劇場はこちらから▼



## 農民連フラッシュ flash

### 青年部夏の学習交流会 in 福岡

8月27日～28日、農民連青年部夏の学習交流会が福岡にて開催されました。1日目は温暖化をテーマに、4名のパネリストから今行っている取り組みについて話を伺い、2日目は糸島市にある株式会社百笑屋松崎さんの案内で、農業機械や堆肥施設、田んぼや大豆の圃場を見学させていただきました。今回の交流会では全国から40名が参加し、普段話をする事ができない仲間と交流を深めました。



### 稲刈り最盛期

令和7年産の米収穫が最盛期を迎えており、どの田んぼでもコンバインが稲を刈り上げています。雨降りではなかなか収穫が進まないこともありますが、機械作業なので焦りは禁物です。夏の干ばつや猛暑で心配しましたが、品質も良いようです。



## オンラインから購入できます！



有機栽培コシヒカリを使用したパックご飯です。玄米と白米をご用意しております！



昨年ご好評いただいた福島県会津産小麦100%のそうめん。数量限定となりますのでお早めにお買い求めください！

下記QRコードからご注文できます！



BASE



楽天